

ワークショップに関する言説と歴史的系譜の検討： 日本の家族生活教育におけるワークショップの共通理解のために

Examination of General Views and the Historical Origins of Workshops:
Toward a Consensus on Workshops in Family Life Education in Japan

倉元 綾子

KURAMOTO Ayako

鹿児島県立短期大学

Department of Home Economics, Kagoshima Prefectural College

To obtain consensus of the workshops that is the basic of Family Life Education methodology, I examined various remark theories and the historical lineages concerning the workshops. As a result, the following points were clarified.

- (1) The workshops are located as an important method of the family experience education. They are provided in various content and the forms.
- (2) The workshops have the root in Dewey's empiricism education philosophy. The workshops are based on "sharing" (Social Constructionism). "The workshops are a style of learning and the creation that an individual or a small group of people do the others understanding and the consensus building, and generate the meaning through participation, the experience, the interaction, and the cooperation".

キーワード Key words : 男workshops ワークショップ, Family Life Education 家族生活教育,
the United States of America 米国, Dewey デューイ, Social Constructionism
社会構成主義

1. はじめに：家族生活教育の方法論への関心

筆者らは米国、台湾、韓国における家族生活教育について検討を重ねる一方¹⁾、米国の家族生活教育のテキスト等を翻訳紹介している²⁾。

これらを踏まえて、日本における家族生活教育の導入と展開を模索し、パイロット講座やそのための冊子作成³⁾を試みてきた。

しかしながら、これらを通じて、ワークショップに関する認識は「形式だけでなくワークの位置づけや目的に対する共通理解が十分でない」⁴⁾と指摘されている。

家族生活教育を提供する人々がワークショップについて理解を深め、すぐれたワークショップを提供することは、家族生活教育に対する認知を高め、広げていくことにつながる。

そこで、本稿では、ワークショップに関する共通理解の基礎を形成するために、ワークショップに関する言説とルーツを検討し、家族生活教育におけるワークショップに関する課題を明ら

かにしたい。

2. 家族生活教育の概要

これまでに検討された定義（『家族生活教育』, FLE2014）やNCFRのホームページ（ncfr.org）を参考にした家族生活教育の概要は以下のとおりである⁵⁾。

家族生活教育の対象は個人と家族（および地域コミュニティ）であり、その目的は家族の強化／家族の生活を安定させよりよく豊かにする（エンリッチメント）こと、生涯にわたる人間の成長・発達・行動に関する学習の支援、現在と将来の家族員としての個人の役割の可能性の開発、個人と家族の問題の発生の予防、問題が発生した場合でもその悪影響を最小限にとどめることである。家族生活教育の内容は、コミュニケーション・スキル、人間発達に関する知識、意思決定スキル、自尊心、人間関係に関する知識などである。家族生活教育の方法は、予防的・教育的・協働的アプローチであり、情報・知識・スキル・資源・学習経験・体験的学習を通じて提供される。家族生活教育の独自性は、個人・家族の課題を、経済学・教育・仕事や家庭の課題・子育て・性・ジェンダーなどと関連する社会的な問題として捉えていること、家族エコシステムの視点から個人・家族を捉えていることにある⁶⁾。

これらを踏まえて、米国家族関係学会は発達段階（年齢段階）に応じた「家族生活教育の枠組み」⁷⁾の10領域を提示している（表1）。

表1 家族生活教育の枠組み

	社会の なかの 家族	家族内 ダイナ ミクス	人間の 成長と 発達	人間 の性	人間 関係	家族 資源 管理	親教 育と 指導	家族法 と社会 政策	倫理
幼年期									
思春期									
成年期									
高齢期									

家族生活教育 方法論	FLEプログラムの 計画と実行	ベスト・プラクティスの 利用
---------------	--------------------	-------------------

NCFR資料より筆者作成

3. 研究方法

ワークショップの言説の検討にあたっては、主として『家族生活教育—人の一生と家族—第2版』⁸⁾を用い、必要に応じてFamily Life Education: Working with Families across the Lifespan Third Editionなど家族生活教育関連文献、ワークショップ関連文献、および米国家族関係学会のホームページなどを用い、それらに現れる言説を分析、検討した。

4. 結果および考察 1：家族生活教育におけるワークショップと方法論への関心

家族生活教育ではワークショップはどのように位置づけられ、どのように行われているかを『家族生活教育 第2版』⁹⁾から検討する(煩雑さを避けるため、本文中にページ数を示した)。

このような仕事〔家族生活教育…引用者注〕では、それぞれの年代の人々に対する教育プログラムやワークショップについて、準備・プレゼンテーション・評価が必要になる。…このテキストでは、現実に即して、理論とプラクシス(省察をともなう活動)を融合させており、さまざまな話題について、さまざまなグループと、和やかな雰囲気に対話することが求められる参加型体験を奨励するように書かれている。…〔キャロル・A・ダーリン…引用者注〕博士はまた、現在と未来の専門職の可能性について記述し、学生が双方向対話型の授業実践をつうじて、多様性を認識し理解する方法を示している。(序文、xv-xvi, 下線引用者)

また、同書では、金銭管理(42)、ペアレンティング(子育て)(44)、ストレス管理(44)、思春期の若者とのコミュニケーション(44)、時間管理(44)、さまざまな家族課題(150)、ワーク・ファミリー・バランス(180)、性とティーン(181)などが挙げられている。その形態は、3時間(180)、6週間(181, 216-217)、職場(268)など、多様である。

『家族生活教育の枠組み』においては、1991年から家族生活教育方法論が明示された。その内容と実践の観点は次のようである¹⁰⁾。

家族生活教育方法論の内容は、(1) FLEを計画・実行し評価する能力と(2) FLEの一般的哲学と幅広い原理についての理解である。

実践の観点としては次の点が挙げられている。多様な最新の教育方法を用いる、学習者の生活環境のなかにある情報の適用を促すような技術を用いる、個々の弱点・ニーズ・学習スタイルを尊重した学習環境をつくる、多様性やコミュニティのニーズ・関心・興味に敏感である、文化的な要求を満たす(culturally-competent)教育的資料や学習体験を開発する、家族や親とともに行うワークに成人教育の原則を組み込む、学習体験を発展させる(ニーズ・アセスメント→目標と目的→内容の開発→実行→評価/結果判定)などである¹¹⁾(引用者仮訳・要約)。

以上のように、家族生活教育ではワークショップが重要な教育方法として位置づけられ、多様な内容と形態で行われおり、家族生活教育方法論に対して大きな注意が払われていることがわかる。

5. 結果および考察 2：ワークショップとはなにか—一般的言説

そこで、ワークショップとはなにかについて一般的言説を検討した。辞書・辞典等によるワークショップの定義を整理した結果は表2に示すとおりである。

どの定義においても、原義である仕事場・作業場を最初に挙げている。

しかしながら、所謂ワークショップの定義については、定式化されておらず、まちまちであることがわかる¹²⁾。

表 2 辞書・事典にみるワークショップの定義

辞書・事典名	定義
広辞苑第六版 ¹³⁾	① 仕事場。作業場。 ② 所定の課題についての事前研究の結果を持ち寄って、討議を重ねる形の研修会。教員・社会教育指導者の研修や企業教育で採用されることが多い。
デジタル大辞泉 ¹⁴⁾	① 仕事場。作業場。 ② 参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究会。 ③ 参加者が自主的活動方式で行う講習会。
ブリタニカ国際大百科事典 小項目電子辞書版 ¹⁵⁾	美術、演劇、映画などさまざまな芸術の分野で、具体的な技術を学ぶ集りやセミナーをいう。通常は、その技術を習得した芸術家が若手の指導にあたるが、一回の場合もあれば、連続して行われることもある。特に演劇においては、1960年代以降集団創作が盛んになり、ワークショップから発展して、実際の上演にいたることも多くなった。その場合、ワークショップをリハーサルの一形態とみなすこともできる。
オックスフォード米語辞典第 2 版 ¹⁶⁾	① (名詞) モノが作られるか、あるいは修理される部屋あるいは建物 ② (名詞) グループの人々が、特定のテーマやプロジェクトに関して集中的な議論および活動に参加している会議・会合 ③ (動詞) 正式な舞台の前に作品の状況を検討するために集中的な議論や即興を用いて、演技をする (引用者仮訳)
ケンブリッジ上級学習者辞典&シソーラス ¹⁷⁾	① (部屋) : 機械や道具を使ってモノが作られるか、あるいは修理される部屋 あるいは建物 : 大工・塗装工の作業場、工作室 ② (会議) 議論したり、あるテーマや活動のなかで実践的作業をしたりする人々の会議・会合 [演劇・詩・研修ワークショップ、地方評議会がストレス管理ワークショップを運営している、ワークショップの集会・製品] (引用者仮訳)
英語アメリカン・ヘリテージ辞典 第 5 版 ¹⁸⁾	① (名詞) 手作業や軽工業的作業が行われている部屋、場所、あるいは小規模施設 ② (名詞) 通常少人数の参加者の間の相互作用や情報の交換を強調している教育的セミナー、あるいは継続的会議・会合 [創造的執筆ワークショップ] ③ (他動詞) コラボレーター (協同制作者) の集団からの示唆や批評に基づいて (ドラマや文学作品を) 制作あるいは修正すること。(引用者仮訳)
English Wikitionary ¹⁹⁾	① モノが作られたり、軽工業的作業が行われたりする小さい部屋 ② 小集団のための短期集中教育講座。相互作用や問題解決を強調する。 ③ 学術集会 (引用者仮訳)
コリンズ英語辞典 ²⁰⁾	① モノづくりやその他の形態の手仕事が行われている部屋あるいは建物 ② 工芸のために確保された個人の家、学校などの部屋 ③ 人々のグループが創造的なプロジェクトあるいはテーマに関する学習あるいは作業に参加する人々のグループ : 音楽ワークショップ ④ (劇場) 衣装、舞台装置、伴奏なしで (劇を) 演じること (引用者仮訳)
ミリアム・ウェブスター辞典 ²¹⁾	① モノづくりや手仕事が行われている狭い場所 ② 作業場 ③ 特定の分野における技術やスキルに特別に焦点をあてた、比較的少人数の人々のグループのための通常短期の集中的な教育プログラム (引用者仮訳)
ビジネス辞典 ²²⁾	① (機械加工のような) 実際の物質的ワークが行われている店のフロアあるいは施設 ② 実践的経験を得るための課題に関連する実際の仕事を解決するために参加者が個人あるいはグループで作業する教育的授業あるいはセミナー (引用者仮訳)

6. 結果および考察3：ワークショップとはなにかー『ワークショップー新しい学びと創造の場ー』（中野，2011）²³⁾ から

次に、ワークショップに関する最初のまとまった著作である『ワークショップ』をもとに、ワークショップに関する記述を抽出した（煩雑さを避けるため、ページ番号は本文中に記した）。

（1）ワークショップの定義

講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して共同で何かを学びあったり創り出したりする学びと創造のスタイル（11）（下線引用者、以下同じ）

「参加体験型のグループ学習」（132）

（2）ワークショップの特徴

「参加」「体験」「相互作用」などの要素は、それぞれが独立している特徴ではなく、互いに重なりあい影響し合ってワークショップの学びや創造を深めていく（143）²⁴⁾。

ワークショップでは、双方向的な「参加型」の学びを大切にする。…参加者の興味や意欲を引き出しながら場を展開していく。（133）

「体験」…言葉だけの理解よりも、身体を使ってやってみること、感じてみることなど、心身まるごとの「体験」を重視する。「知性（Mind）」だけでなく、「からだ（Body）」を使い、時には「感情（Emotion）」に触れたり、「直観・霊性（Spirit）」も動員するホリスティック（全包括的な）学び…（137）

ワークショップでは、一人では決して思いつかなかったアイデアが出てきたり、自分だけだと抜けられなかったところから大きく踏み出せたり、グループの相互作用の中で、大きな力が生まれてくる。このような、単なる個の総和を越えた力を生み出す作用、つまり「シナジー」とか「協働作用」が生まれる（156）

7. 結果と考察4：ワークショップとはなにかー『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』²⁵⁾（仮宿ら，2012）から

『ワークショップと学び』シリーズは、ワークショップを「まなび学」の実践と位置づけ、その可能性を探究したもので、ワークショップとは何かを考えると、示唆に富んでいる。同シリーズの第1巻から、ワークショップに関する言説を抽出した（煩雑さを避けるため、ページ番号は本文中に記した）。

(1) ワークショップの定義

協働的な場面における子ども同士の他者理解や合意形成を基礎とした意味の生成をめざしていく (荻宿, 11)

「コミュニティ形成 (仲間づくり) のための他者理解と合意形成のエクササイズ」 (荻宿, 18)

「まなびほぐし」の場²⁶⁾ (佐伯, 64)

「“異”との出会い」…新しい“つながり”ができて、これまで予想もしなかった大切なことを、「思わず」互いに学べる仲間がつかれる (佐伯ら, ii-iii)

(2) 社会構成主義学習観に基づく学習方法

ワークショップは、社会構成主義学習観²⁷⁾に基づく学習方法 (荻宿, p.18)

社会構成主義学習観は、「分かち合う」学習観である (荻宿, 79-80)。

子どもたち同士がアイデアを出し合い、自分たちで作品作りの共同体に参加して、それぞれが役割を果たしていくことで「自分たちが考え、協働して作った作品」という成果とそのプロセスに込められた意味を生成したことが学習なのだといえる。つまり、知識の獲得が目的ではなく、他者と知識を「分かち合っている」状況、プロセスを学習としてとらえるのである。(荻宿, 79-80)

(3) ワークショップの特徴

知識を獲得していくことと、他者とともに意味を構成していくという認知主義的な学習と社会構成主義の学習の補完的な学習の在り方に触れていると見ることができる。(荻宿, 251)

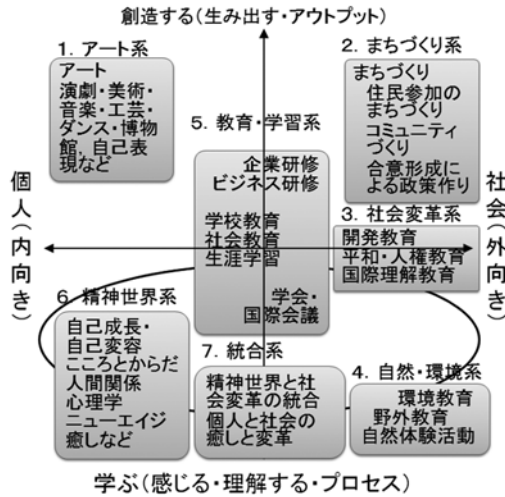
8. 結果と考察5：ワークショップの分類、歴史的系譜、およびデューイの経験主義教育哲学

(1) ワークショップの分類と歴史的系譜

現在のワークショップの分類と歴史的系譜の考察を検討した。

中野は、ワークショップを特徴づける「想像する」と「学ぶ」を縦軸に、「個人」と「社会」を横軸にして、アート系、町づくり系、社会変革系、自然・環境系、教育・学習系、精神世界系、統合系の7つに分類している^{28, 29)} (図1)。

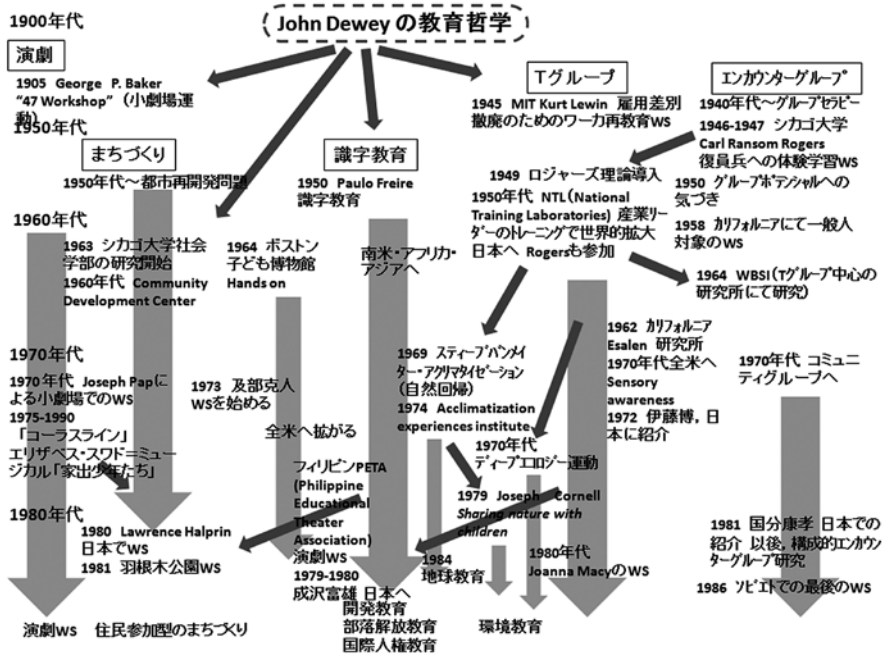
ワークショップに関する一般的言説と歴史的系譜の検討



資料出所：中野民夫, 『ワークショップ』, 2011, 19

図1 ワークショップの分類

さらに、中野は高田を引用しながら、ワークショップの歴史的系譜をまとめている(図2)。すべてのワークショップがジョン・デューイ(1859-1952)の教育哲学を根源としていることが示されている³⁰⁾。



資料出所：高田研, 1996 を引用者改変

図2 ワークショップの歴史的系譜

(2) デューイの経験主義教育哲学

そこで、デューイの経験主義教育哲学に関する考察を検討した。概要は以下のとおりである。

デューイは教育を「経験の再構成」と定義している³¹⁾。「経験」とは、道具的活動による環境との相互作用、反省的思考による意味の構成活動である。「経験」は、能動的で知性的で構成的な「実験的認識」であり、活動によって意味づけられる働きを意味する。「経験」は、「連続性 (continuity)」と「相互作用 (transaction)」の2つの原理に基づいている。「連続性」は、論理と心理、科学と経験、個性と共同性など、対極に位置づけられる2つの概念を経験によって統合し連続させる。「相互作用」は、言語や道具を媒介とする活動によって主体と客体の関係を流動化させ統合する³²⁾。

『家族生活教育 第2版』でも体験学習モデルについて触れている。すなわち、各種のプログラムが体験学習にもとづいていることを示している。

体験学習モデルは人間関係プログラムや結婚教育プログラムで幅広く用いられる。体験に基づく学習は、人はすることによって最もよく学ぶという仮定に基づいている。基本的な前提は、体験が学習に先行するということ³³⁾

9. 要約と今後の課題

家族生活教育方法論の基礎となるワークショップに関する共通理解を形成するために、各種の言説と歴史的系譜を検討した結果、以下の点が明らかになった。

- (1) 家族生活教育ではワークショップが重要な教育方法として位置づけられ、多様な内容と形態で行われている。
- (2) ワークショップの定義は、定式化されていない。
- (3) 多様なワークショップが展開されているが、その根源はデューイの経験主義教育哲学にある。
- (4) ワークショップとは「分かち合う」学習観（社会構成主義学習観）に基づいている。ワークショップのプロセスを通して、協働的な場面における他者理解や合意形成を基礎として意味の生成が行われる場であり、「まなびほぐし」の場である。
- (5) ワークショップとは「講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して共同で何かを学びあったり創り出したりする学びと創造のスタイル」であり、「参加」「体験」「相互作用」「協働」を主要な特徴としている。

以上のような結果を踏まえ、今後、家族生活教育に関連する文献等を検討し、家族生活教育に関連するワークショップの歴史と系譜、そのワークショップの実際について資料を収集、部関して、日本の家族生活教育におけるワークショップのあり方を検討していきたい。

注および引用文献

- 1) 倉元綾子ほか. 日本における家族生活教育に対するニーズ：日本の家政学が家族に貢献するための基礎的研究. 家政学原論研究, 2008, No. 42, 140-146；倉元綾子. 台湾におけるジェンダー平等教育と性教育. 同, 2010, No. 44, 2-13；倉元綾子. 韓国における「健康家庭基本法」(2003年)の成立と展開, 同, 2011, No. 45, 2-8 など.
- 2) L. H. パウエル, D. キャシディ (倉元綾子・黒川衣代監訳). 家族生活教育一人の一生と家族－第2版. 南方新社, 2013
- 3) (一社) 日本家政学会家政教育部会. 家族生活支援の理論と実践. 家政教育部会, 2012；(一社) 日本家政学会家政教育部会編. 家族生活の支援－理論と実践－. 建帛社, 2014
- 4) 中森千佳子. 書評『家族生活の支援－理論と実践－』. 生活経営学研究, 2015, No. 50, 31
- 5) 米国家族関係学会によるさまざまな試みはあるものの, 家族生活教育とはどういうものかについての定義は, その発祥地である米国においてさえ, 統一的な見解は存在しない。
- 6) 前掲書 2), 監訳者まえがき, i-ii)
- 7) The Family Life Education Framework, NCFR, 2011
- 8) 前掲書 2)
- 9) 前掲書 2)
- 10) University and College Curriculum Guidelines. In Darling & Cassidy, *Family Life Education: Working with Families across the Lifespan* 3rd Ed. Waveland Press, 2014, 349
- 11) Bredehoft, D. J. & Walcheski, M. J. (Eds.), *Family life education: Integrating theory and practice* 2nd Ed., National Council on Family Relations, 2009, 261-263; Darling & Cassidy, *Family Life Education: Working with Families across the Lifespan* 3rd Ed. Waveland Press, 2014, 354-354
- 12) あえて示すならば「限られた期間に, 特定のテーマ・プロジェクトに関して, 個人やグループが, 活動・作業を通じて, 相互作用や情報交換などをし, 創造的で実践的な成果をえるために行われる会合・教育的セミナー」と言うことができるだろう。
- 13) 岩波書店. 広辞苑 第6版. 岩波書店, 2008
- 14) 小学館. デジタル大辞泉. 小学館, 2013
- 15) ブリタニカ・ジャパン. ブリタニカ国際大百科事典 小項目電子辞書版 2014年4月改訂版. Britannica Japan Co., Ltd./Encyclopedia Britannica, Inc. 2014
- 16) Oxford University Press. Inc., *The New Oxford American Dictionary: Second edition*. Oxford University Press. Inc., 2005 <http://www.oxforddictionaries.com/definition/english/workshop>
- 17) Cambridge University Press. *Cambridge Advanced Learners Dictionary & Thesaurus*. Cambridge University Press, 2015 <http://dictionary.cambridge.org/dictionary/british/workshop>
- 18) Houghton Mifflin Harcourt Publishing Company. *American Heritage® Dictionary of the English Language*, Fifth Edition. Houghton Mifflin Harcourt Publishing Company, 2015 <http://www.thefreedictionary.com/workshop>
- 19) en.wiktionary.org. English Wiktionary. en.wiktionary.org, 2015 <http://en.wiktionary.org/wiki/workshop>
- 20) Collins. The Collins English Dictionary. Collins, 2015 <http://www.collinsdictionary.com/dictionary/english/workshop>
- 21) Merriam-Webster. Merriam-Webster Dictionary. Merriam-Webster, 2015 <http://www.merriam-webster.com/dictionary/workshop>
- 22) WebFinance, Inc. BusinessDictionary.com. WebFinance, Inc., 2015 <http://www.businessdictionary.com/definition/workshop.html>
- 23) 中野民夫. ワークショップー新しい学びと創造の場ー. 岩波書店, 2011
- 24) 堀らは, 参加, 体験, 協働, 創造, 学習の5つを挙げている。堀公俊, 加藤彰. ワークショップデザイン 知を紡ぐ対話の場づくり. 日本経済新聞出版社, 2008, 15
- 25) 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編, ワークショップと学び1 まなびを学ぶ. 東京大学出版会, 2012
- 26) 「まなびほぐし (アンラーン unlearn)」というのは, 「まなび (learn)」のやり直しである。…これまでの「まなび」を通して身に付けてしまっている「型」としての「まなびの身体技法 (まなび方)」について, それをあらためて問い直し, 「解体」して, 組み替えるということの意味している… (佐伯, 62)
- 27) 社会構成主義とは「人間の知識は, 広く社会や文化などの環境に分散されており, 個人間のコミュニケーションを介した協力により社会的に構成される」と考える立場である。
社会心理学者の K. J. カーゲンは, その理論上の確立は「われコミュニケーションする, 故にわれあり」だと述べ (カーゲン, 1994), 相互の協力による問題解決と必要な知識の社会的構成を主張する。

ヴィゴツキー理論を発展させた「発達の最近接領域」では、学習者個人の問題解決能力は、大人である教師や一定のエキスパートの指導下ばかりでなく、より能力の高い仲間がいる場合にも高められ、より高次の発達水準へ導かれ、引き上げられるとしている(菅井勝雄,「構成主義の教育」,日本教育方法学会編,現代教育方法事典(電子版),図書文化社,2004)。

28)中野,前掲書 23)

29)堀は,組織系(問題解決型),社会系(合意形成型),人間系(教育学習型),複合系(変革型)に分類している。

30)デューイは『学校と社会』(1899),『民主主義と教育』(1916),『経験と教育』(1938)などを通じて,経験主義教育の哲学を構成した。

31)デューイ,民主主義と教育,1916

32)佐藤学,経験主義の教育,日本教育方法学会編,現代教育方法事典(電子版),図書文化社,2004

33)前掲書 2), 244